

# 第5回岩内町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事概要

- 開催日時 : 平成29年3月2日(木) 13:30~17:00  
開催場所 : 岩内地方文化センター 会議室(2F)  
次第 : 1 開会  
2 議題  
    (1) 岩内町総合戦略の進捗状況について  
    (2) その他  
3 閉会  
出席者 : 委員 8名  
          オブザーバー 1名  
          事務局 3名  
          計 12名

## 【議事概要】

### 1. 開会

- 事務局 : (開会)

### 2. 議題

- 委員長 : 事務局より説明をどうぞ。  
○事務局 : (資料1、資料2、資料3に沿って説明)  
○委員長 : 今回からご出席という方もいるので、かなり基本的なことでも結構だが質問があれば。  
    それでは、まずは私の方から。  
    まち・ひと・しごとは国で方針が示され、各自治体にも策定の指導があり、道内の全ての自治体が策定したが、後志管内では岩内町はかなり滑り込みだった。そこは議論を十分に練った上で策定だったということにしたい。  
    町には総合計画もあるが、総合計画と総合戦略とは意外と位置づけがわかりづらい要素が一般的にはある。総合計画を何年間に1度作るのも町であり、その中で総合戦略と総合計画とは、どんな関係性になっていくのか。  
○委員 : 当町の総合計画は、平成30年度までの10年間の計画としており、町の最上位の計画である。大きなテーマとしては協働のまちづくりという中で福祉から企画的なものまで、いろんな分野で構成している。  
    一方、総合戦略の方は、具体的な数値目標を立て、いつまでに実行しなくてはとのプレッシャーを受けながら進めるため、私としてはとても良いものと思っている。

○委員長： 総合計画とは昔から作られており、10年に1回見直しながら、町全体の進むべき道を示して、そこに網羅的に盛り込んでいくのが一般的な位置付けだと思う。

その中で、総合戦略というのは、より戦略性が高いものかどうか、例えば重要だと思われるものをしっかり明示し、かつスケジュール時期や数値目標を定めて、しっかり管理しながら進めていくもの。

両者は全く別物ではなく、むしろきちんと整合性のとれているものだと認識していただきたい。

その中で今回、丁度1年近く経ったところで、総合戦略がどの程度進んでいるかの説明があったところである。全体に渡ることでも、自分の業務に直接関わるような部分でも結構なので、何か質問等があれば。

○委員： 人口ビジョンにおいて、最新の平成27年度の国勢調査の数字で

13,042人となっている。住民基本台帳の数字はこれとはまた違う部分があると思うが、現時点の住民基本台帳の数字に少しは効果が出てきているのか。

また、もう1点は、資料3の12ページの空き店舗活用支援事業について、今年度はまだ実績がないということだが、その辺は制度が現実にあっていないのか、それともコマースが足りないのか、まだまだこれからなのかについて示してほしい。

さらに、もう1点は、資料3の14ページの異業種交流研修を3回開催しているが、民間企業とはどういった方とどういう交流をしているのか。

○事務局： 1点目について、先日の広報紙に掲載された住民基本台帳の人口では、

13,150人だったと記憶しており、人口推移のグラフと住民基本台帳に差異はある。

当町の総合戦略は、平成28年3月に滑り込みで策定し、今年度が実質1年目の計画実施と捉えており、今後、将来人口の目標値に少しでも近づけるような形で進めていきたい。

また、当町の首長も人口数値を常に気にしており、そういった中で重点的な予算の格付けや総合戦略に掲載している事業には非常に理解を示している。今後、成果が出て目標設定に近づけるような施策を進めていきたい。

○委員： 2点目の空き店舗活用支援事業については、平成28年度からスタートしている。

実際、何件か問い合わせがあったが、最終的には合意までに至らず、補助金も出せずに終わっている。

理由とすれば、家賃が金額的に折り合いが付かなかったということになる。

町では、商店街の方をお願いし、各店舗の情報を出してきたが、今後は、もう一步踏み込んで、空き店舗の件数や価格を示したリストを作って提示できるようにすれば成果が出ると考えている。相談が来るまで待っているような状況だったため、その辺は改善していかなければならない。平成29年度は最低1件は実績を残さなければと頑張っている。

イタリアでは、空き店舗を部屋にし、フロントの受け付けは道の駅でというような、町全体を1つのホテルにするような計画を実行しているケースもあるので、いろんな角度でチャレンジしてみたい。

当然、改修費用等も出てくるが、1番は商店街に人の流れを作らなければ、いくら

作っても人は来ない。実際に住んでいる方は、お客さんも来ないし、後継者もないので、そのまま商店の2階に住んでいるという方々なので、まずはなんとか人の流れを作るといふところを考えていきたい。

3つ目の異業種交流については、平成27年度に私が企画経済部に来る前に総務で始めたものだが、20名程度のメンバーで構成しており、半分の10名が役場の若手職員で、残り半分の10名が各事業所に声掛けして参加してもらっている。

事業所の方は様々で、福祉関係やパチンコ店からも参加しており、年齢はだいたい40歳ぐらいまでとなっている。

同じ職種の者だけだと、同じ悩みでお互い慰め合うような感じになるが、新しく発想を変えようということで、色々な方々と交流する中で今後の人脈を作っていくという狙いで、年3回、講師を招いて開催している。

それぞれ事業所に戻ってからの仕事に役立ててもらうため、スキルアップにつなげるための検証もしており、非常に重要な事業だと思っている。

○委員： 今の空き店舗支援事業について、実体験として話したい。

この制度が始まった時、私のところにもこういう制度が始まるので、助成を受けて商店街に店舗を出さないかという話があった。現実的に考えながら色々サーチしたが、恐らく商店街の活性化や商店街の空き店舗の解決は、制度でどうにかなるものではなく、構造的な問題ではないか。

例えば、高齢化した家主が2階で住んでいる状態での1階だけの貸出であったり、売る気は今後も一切ないなど、様々な使いづらさと、家賃は原発絡みで田舎にしては随分割高という部分もあるので、制度と別にずっと続いてきている構造的な問題の方が大きい。

○委員長： 岩内に限らず、いわゆる商店街という比較的似た構造が日本全国どこにでもあり、店舗兼住宅というスタイルというものが全体に集積している状態。電気はつけているが、住まいの一角という形が実際には多く、スペースとしてそこで利益を上げていくような取組には転換しづらい。制度的になかなか難しいというものはあるが、紹介していただいた民泊のような今までの店舗活用とは違う次元の何かに取り組んでいくのも手法としてある。

○委員： さきほど紹介のあった北イタリアの地方で割と扱われているアルベルゴ・ディフーズという数百人の人口規模の地域で行われていることだが、空き店舗などを民泊よりも少し良いグレードに作り替えて、観光案内所がホテルのフロントの役割を果たし、各宿泊施設に案内する。また、食事は商店街の中のレストランを紹介し、各レストランでは、チーズやワインなどの地物を勧めるなど、地域全体で宿泊をコーディネートしている。

○委員長： 全体として確認しておくが、総合戦略というのは作った後はアンタッチャブルというのではなく、状況が変わっていく中で見直すものは見直し、当初想定していなかったことが起きてくれば、そこに対して柔軟に対応して行くというもの。

そのため、作ったものに過剰に縛られる必要はない。

それを前提としてだが、資料2の基本目標2「新しい人の流れをつくる」で着手時期未定の事業があるが、なかなか着手の見通しが難しいというイメージか。

○委員： ちょっとハードルの高い事業もある。実際に、今年の春からスキー場周辺のリゾート開発の話があり、ニセコ圏の外国人をこの地域に呼び込むことを進めている。これを活用して人の流れを作っていきたいと考えている。

その中での通年アクティビティ開発は、スキー場だけの70日間ぐらいではリゾートは立ち行かなくなるため、夏場にいかに客を呼び込むかだが、この地域とニセコの違いは海があることなので、開発事業者と一緒に考えていきたい。

○事務局： 移住定住については、予算を要求しているところだが、予算が付いた際は、平成29年4月1日から補助制度のスタートを切りたい。

そういった中で、この地域に住んでいただくために地域の魅力をアピールしていく。

また、人手が不足している民間企業に対して人材確保の支援として、引っ越しや家賃の補助を活用してもらいたい。

このほかに新年度の予算では、家の建築費補助の予算も上程予定となっており、まずは、1度岩内に来てアパートに住んで働いてもらい、気に入ったら家を建ててもらおうという好循環の仕組みづくりを町では考えている。

○委員長： リゾート開発の件も、総合戦略ができたあとの話であり、そういったものは積極的に取り込んでいき、うまく活用するのが総合戦略だと思う。随時、色々な情報を提供いただき、議論していきたい。

1年前の議論の中で、連携という言葉が戦略の策定や推進においてキーワードと言われてきた。ここでいう連携とは、例えば産・官・学・金・労・言という幅広いセクターであったり、若しくは岩内町の計画ではあるが、そこにとどまらず近隣自治体や場合によっては遠方自治体との地域間連携を進めるという認識である。

それぞれの視点で、この1年間でこれまでになかったような連携が進んだり、接点の道筋が見えてきたという話があれば紹介いただきたい。

○委員： 連携という言葉キーワードに色々と進んでいる。

昨年、地域の4町村で岩宇4町村まちづくり連携協議会が設立され、その中では、民間と行政の垣根を越え、30代、40代中心の若手グループで4町村間の連携が進んでいる。

岩内町が部会長となって進めているのが広域観光の部門だが、お互いの町村を改めて知るために、相互モニタリングツアーや先進地視察研修を行うことにより、町村間の垣根は一昔前に比べて随分崩れてきた。

他にも地域の食材を使った商品開発の部分では、札幌の地下歩行空間での販売でも、町村間の協力体制が取れており、また、訪れる客も岩内にいたことがあるなどと立ち話をしながら、雰囲気の良い中での接し方ができた。

○委員長： 色々な事例を紹介いただいた。

今日の委員会は、戦略策定後の1年弱でどのように進んでいるかを共用し、次年度以降に弾みを付けていこうという意図で行われた。

厳密な意味でのKPI設定があるので、数値的な達成度合いがどうなのかは、新年度に入ってから取りまとめて、この場で報告されると聞いているので、次回は、適度な期間内に開催していただきたい。

○委員： さきほど言われた役場のセールスというのは、住んでいる人の心構えというか、本当に岩内をどうにかしようと思っているのかは難しい部分があるのだが、金融協会などの方もいるので、役場が頑張ってもだめなら別な力が協力して、1つでも2つでも実績を作るという手法で進めるのがこの委員会だと思う。

始めて1年だが、2年目からは実績にこだわった内容が求められる。

岩内町は多くの事業に取り組んでいてすごいとは思いますが、つつい頑張る分、こちらもつつい一生懸命行けと思ってしまう。

○委員長： 管内の他市町村の戦略を見ても、色々な考え方があり、絞り込んでいるところもある一方で、岩内町に関しては幅広く進めている。

さきほども、婚活支援で1組が結婚に結びついたという話があったが、1組をどう捉えるかで、それがリレーとなって広がっていくというようなもの揚げていくべき。

産学官金労でそれぞれの立場で一言アドバイスがあれば、動いていく要素がきっとある。この場が中心となって進めて行ければ。

以上で、議題の1は終了したい。

○委員長： その他だが、この後に開催される岩内町地方創生フォーラムについて説明したい。

もともと、私がこの委員会に就く際に町と打合せしていく中で、大学の有識者という立場ではあるが、学生もいるので可能な範囲で岩内町をフィールドとして研究をやらせてほしいと話していた。

実際に、学生は昨年取りまとめた総合戦略と人口ビジョンを1つの教材として勉強し、また、昨年岩内高校の生徒とワークショップを行い、そういったものを分析結果として取りまとめていたところ、北海道経済産業局からRESASの案内があり、大学として活用し、岩内町を題材として分析を進めて、コンテストに応募していた。

その結果がどうだったのかについて、この後のフォーラムで報告することになる。

分析内容については、町と相談し、総合戦略との整合性を取ろうとするとおもしろくないものになってしまうため、町からは学生が自由に考えてほしいとの意見があり、そのように進めたところである。

しかし、さきほどから改めて総合戦略の中身全体を見てみると、必ずしも的外れ若しくはピントが合っていないようなものではない。さきほどの通年アクティビティ開発にも関わる提案もある。

学生の研究成果ではあるが、キーとなるようなものがあれば、今後の推進委員会での議論の材料としていただきたい。

フォーラムの最後には、ビデオの上映があると思うが、東京で学生が発表した内容には、問題意識を盛り込み、人口に関して言えば、岩内出身の若い2人がUターンし、そこで起業して子供を増やすというストーリーになっている。

総合戦略がどのように関わっていくかを学生なりに解釈した内容となっているので、そういった視点でご覧のうえ、ご意見をいただきたい。

それでは、事務局からの案内は。

○事務局： 今後の総合戦略の推進に向けた流れについて。

来年度は、今年度を実施した事業の効果検証を行うため、役場内で事業成果やKPIの確認、次年度以降の事業の方向性などを取りまとめたうえで、役場内部組織の地方創生推進本部を開催した後、当委員会を開催し、事業の検証などを行いたい。

委員会の開催時期は、役場内での取りまとめ作業を終えてからとなるため、今年の秋頃を予定している。

開催時期については、改めて連絡する。

○委員長： 今日の議題は以上となる。

○委員： 1点要望だが、KPI評価が揃った時点で委員にメールなどで速報をほしい。

○事務局： 当然、委員会のその場での判断は難しいため、取りまとめ次第、委員に配付させていただく。

○委員長： 以上で本日の推進委員会を終了する。